

風しんの第 5 期定期予防接種についての説明書

【接種対象者】接種時点で大阪市民の、昭和 37 年 4 月 2 日～昭和 54 年 4 月 1 日生まれの男性であって、
令和 7 年 3 月 31 日までに抗体検査を実施した結果、風しんの抗体が不十分な方
※令和 7 年度以降、抗体検査を実施した方は対象外

【接種対象期間】令和 7 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日

【接種費用】無料

【接種回数】接種対象期間中に下記いずれかの対象ワクチンを 1 回

【対象ワクチン】麻しん風しん混合（MR）ワクチン または 風しん単独ワクチン

【接種量】1 回 0.5mL を皮下に注射

1 風しんについて

風しんウイルスの飛沫感染（咳やくしゃみなどにより感染すること）によっておこる病気です。潜伏期間（感染してから症状がでるまでの期間）は 2～3 週間です。軽いカゼ症状で始まり、発しん、発熱、首や耳の下のリンパ節腫脹、目の充血などを主な症状とします。

まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症が、2,000 人～5,000 人に 1 人くらいの割合で発生することがあります。また、大人がかかると、発熱や発疹の期間が子どもに比べて長く、関節痛がひどいことが多いとされています。妊娠 20 週ごろまでの妊婦が風しんに感染すると、先天性風しん症候群（先天性心疾患、白内障、難聴等）をもつ子どもが生まれる可能性が高くなります。

2 麻しん風しん混合（MR）ワクチンおよび風しん単独ワクチンについて

予防接種を受けた人の約 95%は麻しん風しん（風しん単独ワクチンの場合は風しんのみ）の免疫を獲得することができますとされています。

3 ワクチンの副反応

【麻しん風しん混合（MR）ワクチン】

このワクチンは弱毒生ワクチンです。接種直後から数日中に接種部位の発赤、はれ、しこりなどがみられることがあります。これらは一過性で数日中には消失します。また、接種後 2 週間以内に発熱、発しんがみられることがあります。

ごくまれに重い副反応としてアナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、急性血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、脳炎及びけいれん等が報告されています。

【風しん単独ワクチン】

主な副反応は、発しん、じんましん、紅斑、かゆみ、発熱、リンパ節のはれ、関節痛などが認められています。ごくまれに生じる重い副反応としては、ショック、アナフィラキシー様症状があり、また、急性血小板減少性紫斑病（100 万回接種あたり 1 回程度）が報告されています。

4 接種にあたっての注意事項

(1) 一般的注意

気にかかることやわからないことがあれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。現在、病気などで治療中の方、今までに免疫状態の異常を指摘されたことがある方は、担当医師とよく相談し十分に納得して接種を受けましょう。

(2) 予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱（通常 37.5℃以上）がある方
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③当該疾病にかかる予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方
- ④免疫機能に異常のある疾患を有する及び免疫抑制をきたす治療を受けている方
- ⑤その他、医師が不適当な状態と判断した方

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患がある方
- ②過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状がみられた方
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑤このワクチンに対してアレルギーをおこすおそれがある方

(4) ワクチンの接種間隔

- ①注射生ワクチンの接種を受けたあとに注射生ワクチンを接種する場合、27 日以上の間隔をあける必要があります。また、医師が必要と認めた場合には、他の予防接種と同時に接種することができます。
（参考）注射生ワクチン：麻しん風しん・水痘・おたふくかぜ・BCG・黄熱など
- ②輸血又はガンマグロブリンの注射などを受けたことのある人は 3～6 か月以上あけて接種してください。

(5) 接種後の注意

- ①接種後 30 分は体調が変化することがありますので安静にし、医師とすぐに連絡がとれるようにしましょう。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後 1～2 週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや体調の変化があるときなどは医師にご相談ください。
- ④接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ⑤接種当日は体調の変化に気を配り、激しい運動や大量の飲酒は控えましょう。

5 予防接種健康被害救済制度

予防接種の副反応により、医療機関で治療が必要になった、あるいは生活に支障をきたすような障がいが残ったなど、健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償が設けられています。申請に必要な手続きについてはお住まいの区の保健福祉センターにご連絡ください。申請後、国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

大阪市保健所・各区保健福祉センター

2025年3月